

4 南エリアの現状と課題

(1) 周辺の状況



A 希望の広場



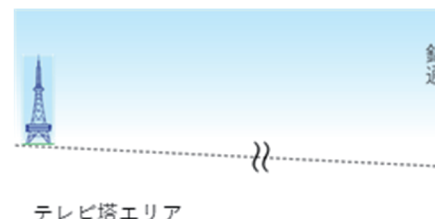
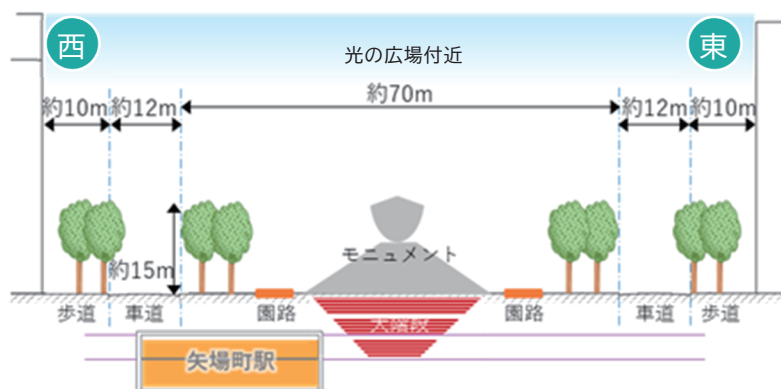
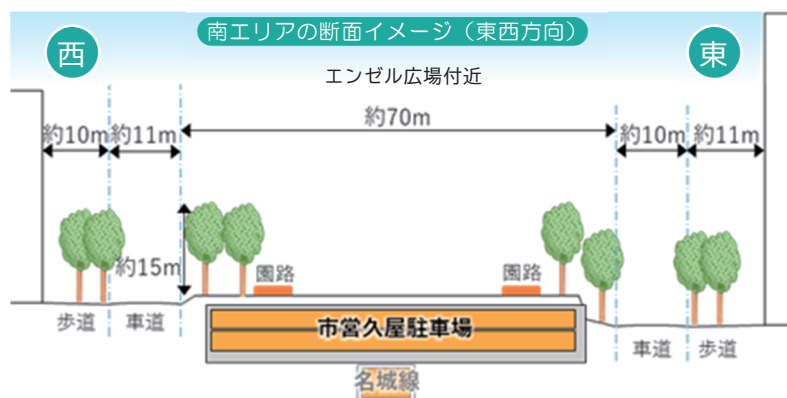
B サカエ ヒロバス



C 愛の広場



D エンゼル広場



北





E エディオン久屋広場



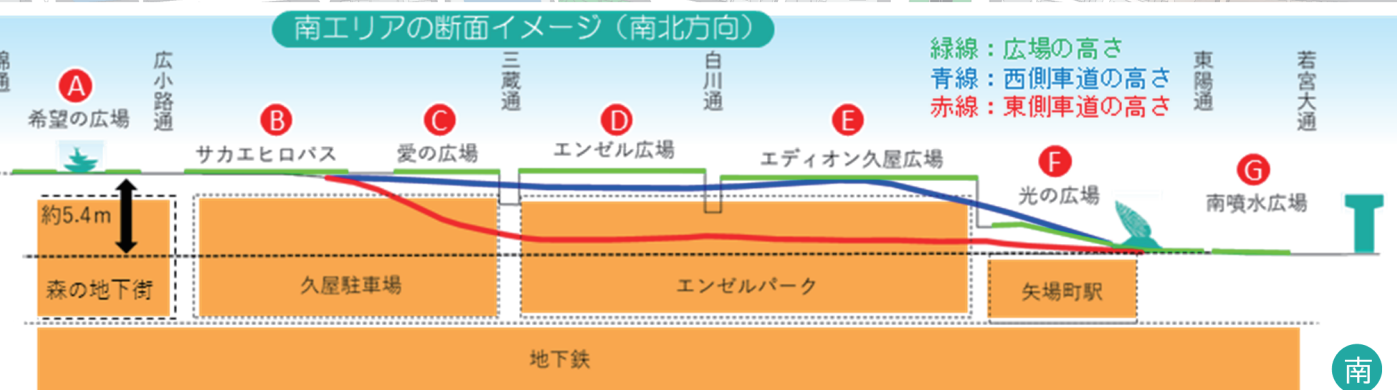
F 光の広場



G 南噴水広場



H 久屋大通庭園フラリエ・堀留水処理センター



4 南エリアの現状と課題

(2) 主な魅力と課題

にぎわい

魅 力	課 題								
● 大規模なイベント広場が複数あり、市内外から多くの来訪者を集める大型のイベントが年間を通じて週末を中心に開催されている ● 音楽やダンスパフォーマンスなどの市民活動の場として活用されている ● 名古屋の風物詩ともいえる恒例行事の主要な会場として活用されている	● 沿道から公園への見通しや相互のアクセス性に課題があり、イベントのにぎわいが周辺に波及していない ● イベントの設営・撤去作業のため、週末の前後は公園としての利用が難しい ● イベントが開催されていない平日や夜間は閑散としており、週末に活用されていない広場もある								
<table><tr><th>イベントの開催件数（R 5 年度）</th></tr><tr><td>約 70 件</td></tr></table>	イベントの開催件数（R 5 年度）	約 70 件	<table><tr><th>イベント利用</th><th>設営・撤去</th><th>日常利用</th></tr><tr><td>約 120 日</td><td>約 120 日</td><td>約 120 日</td></tr></table>	イベント利用	設営・撤去	日常利用	約 120 日	約 120 日	約 120 日
イベントの開催件数（R 5 年度）									
約 70 件									
イベント利用	設営・撤去	日常利用							
約 120 日	約 120 日	約 120 日							
 イベント開催時には、市内外から多くの来訪者がある （にっぽんど真ん中祭り）	 イベントによっては、大掛かりな電源・排水設備が必要となり、来訪者の通行の妨げとなる場合がある								

憩い

魅 力	課 題
● 都心部における緑に囲まれたオープンスペースとして貴重な空間である ● 公園全体に連なる高木の列植と沿道の建物が一体となってシンボリックな街並みを形成している	● 快適な園路や休憩スペースが少なく、全体的に無機質で老朽化しているため、公園としての居心地がよくない ● 植栽が密生しており公園と沿道の見通しが悪い
 休日には、木陰で休んだり噴水で遊んだりする来訪者の姿が見られる	 座る場所などの少ない広場は、平日の利用者が少ない



回遊性

魅 力

- 公園の西側には、百貨店などの大規模商業施設が連担し、多くの来訪者でにぎわっている
- 公園の東側には、多種多様な人々が共生する界隈が広がっている
- 栄駅を中心として地下街が面的に広がっており、百貨店などへ地下からアクセスできる
- 公園の地下には、地下鉄の駅や大規模な都市計画駐車場が設置されており、市内外から多くの来訪者がある



複数の百貨店が立地する西側沿道

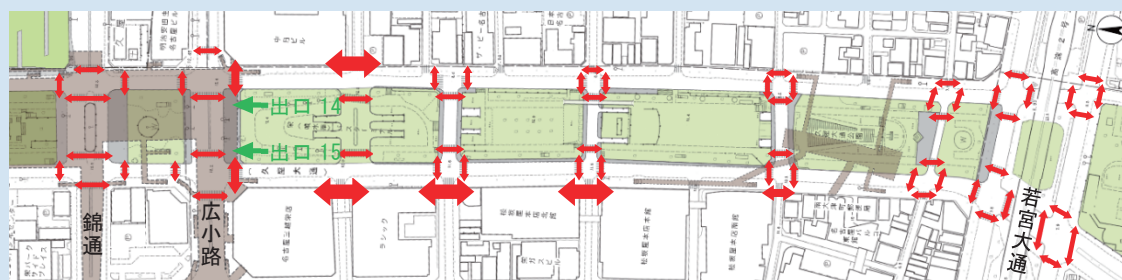
課 題

- 東側沿道と公園に高低差があるなど、場所によっては公園と沿道に隔たりがある
- 各広場が東西方向の道路で分断されており、南北に連なる公園としての一体感が弱い
- 地下と地上を結ぶエレベーター等の昇降施設が少なく、公園内に段差があるなど、バリアフリー経路が確保されていない
- 地下駐車場への入庫待ちの車両による渋滞や、路上駐車がみられる
- 歩道では自転車と歩行者の交錯がみられ、歩行者空間の快適性が阻害されている



公園との高低差がある東側沿道

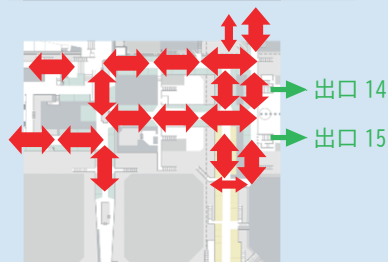
現況の歩行者交通量（地上）



歩行者交通量

- ⇔ 多
- ⇔ 少

現況の歩行者交通量（地下）



地下街から地上への出口（出口 14）

- 地上では、西側の歩行者交通量が多いが、東側や南側への人の流れは少ない
- 地下の歩行者交通量は地上に比べて多いが、地下からの出入口が分かりづらく、地上へ歩行者を誘導できていない

4 南エリアの現状と課題

(3) 再生にあたり踏まえる視点

社会情勢や都心部の現状を踏まえ、南エリアの再整備を考える際に以下のような視点が必要となり

多様な人を惹きつける魅力の向上

近年、人とのつながりの希薄化やコミュニティ機能の低下等による社会全体の活力の低下や価値観の多様化等に加えて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対応する中で、人々の生活様式は大きく変化し、「働き方」や「暮らし方」もより一層変化・多様化したことにより、まちに求められる機能が変化しています。

こうした状況において、都会性とゆとりが共存するまちという栄地区の特徴を活かし、国内外から多様な人を惹きつけるとともに、そこで過ごす一連の時間が魅力的なものとなるように図ることが必要です。



【安全・快適に滞在でき、心豊かな生活を支えるサードプレイス】

コロナ禍において、ゆとりある屋外空間の価値が見直されたことも踏まえ、オープンスペースとしての公共空間には多様なニーズに応えられるサードプレイスとして、一人ひとりの心豊かな生活を支える役割が期待されています。

持続可能なまちづくり

環境問題への取組みや、多様性を認める社会の実現への取組みなど、様々な分野において SDGs の理念等に基づいた持続可能な社会の実現に向けた意識が高まっています。まちづくりの分野においても、これからの都市のあるべき姿として、いつまでも住み続けることができるための取組みが求められています。

豊かなオープンスペースを有する久屋大通公園や、これに面して百貨店の連担する商業地である久屋大通においては、地元市民や周辺事業者と連携しながら、環境・社会・経済が調和した持続可能なまちづくりを推進していく必要があります。



出典：Stockholm Resilience Centre の図を基に作成

【持続可能な都市を支えるグリーンインフラ】

都市をめぐる社会的・経済的状況が複雑化するなかで、公園や道路を自然環境の多様な機能を活かした社会的共通資本であるグリーンインフラとして積極的に活用し、多様な課題の解決に貢献することが期待されています。



ます。また、今後の都市政策においては、公共空間に様々な役割が期待されています。

新たな価値を創造するウォーカブルなまちづくり

今後の都市再生のあり方として、官民のパブリック空間を人中心の空間に転換し、周辺の様々な投資とも連鎖的・段階的に共鳴させながら、目に見える形で人中心の歩きたくなるまちを創出していくこと（ウォーカブルなまちづくり）が重要です。

そのため、まちを歩いて楽しむ素地のある栄地区の特徴を活かし、人々の出会いや交流を促進することによる新たな価値の創造を図ることで、他の都市にない独自の魅力を一層向上させ、差別化を図る必要があります。



出典：名古屋市総合計画 2028
（名古屋市）

【人と人とのリアルな交流を通じたイノベーションを生み出す場】

全国各地で官民一体となって交流・滞在空間を創出する取組が進められており、公共空間が、人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や豊かな生活を実現し、様々な人材や関係人口をさらに惹きつける好循環の構築に貢献することが期待されています。

デジタル技術を活用した機動的なまちづくり

人中心の社会を実現する有効な手法として、デジタル技術の重要性が再認識されており、都市政策においても、デジタル技術を活用した都市構造の再編や都市活動の利便性向上等を図る新たな取組みが求められています。

具体的には、公共施設や自然環境の機能や利用状況などの基礎的な情報をデジタル化することにより、エビデンスに基づく公共空間の活用や運営状況等の評価などが可能となるほか、デジタルデータをオープン化することで、都市活動やその効果の見える化が可能となり、行政だけでなく、民間企業等が事業参画の判断材料として活用できると考えられています。



出典：まちづくりのデジタル・トランス
フォーメーション実現ビジョン
（国土交通省）

【地域のまちづくりを支える、社会課題解決に向けた活動実践の場】

公共空間は、多くの市民、事業者にとって身近な施設、交流の場であり、市民活動の場として活用されてきたことから、デジタル技術の活用などにより、多様なステークホルダーに対し、公園の整備・管理運営への関心と意識をさらに高めていくことで、社会課題解決に向けた活動実践の場としての役割を果たすことが期待されています。